

第12回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事録

日時：令和5年10月17日（火） 14：00～15：30

場所：富山市役所 8階大会議室

出席者

〈委員〉

（五十音順、敬称略）

No.	氏名	役職	産官学金 労言デ	備考
1	石田 康博	連合富山・富山地域協議会 議長	労	
2	石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授	学	
3	押川 実恵	富山商工会議所女性会 会長	産	
4	田中 悟史	(株)日本政策投資銀行富山事務所 所長	金	
5	長尾 治明	富山国際大学 現代社会学部 名誉教授	学	
6	中村 和之	富山大学 学術研究部 社会科学系 教授	学	
7	中村 正美	(社福)富山市社会福祉協議会 専務理事	労	
8	橋本 淳	富山商工会議所 副会頭	産	
9	東出 悦子	(株)アイベック 代表取締役社長	デ	
10	星川 圭介	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 教授	学	
11	松田 智生	(株)三菱総合研究所 経営イノベーション本部 主席研究員	産	
12	宮本 一成	全日本空輸(株)富山支店 支店長	産	
13	村杉 真哉	北陸電力(株) 執行役員 富山支店長	産	
14	森田 由樹子	(株)エコロの森 代表	産	
15	山野 昌道	(株)チューリップテレビ 代表取締役社長	言	10/17欠席
16	吉田 勉	富山公共職業安定所 所長	官	

〈事務局〉

政策監、企画管理部長、企画管理部次長、企画調整課長

財務部次長、防災危機管理部次長、福祉保健部次長、こども家庭部次長、市民生活部次長、環境部次長、商工労働部次長、農林水産部次長、活力都市創造部次長、建設部次長、病院事業局管理部次長、上下水道局次長、教育委員会事務局次長、消防局次長

議事内容

1 開会

2 政策監あいさつ

3 委員紹介、資料確認

4 議事

(1) 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略の一部改訂について

(2) 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略の進捗状況について

(3) 国の地方創生関係交付金を活用した取組について

(4) 企業版ふるさと納税の活用について

(1)～(4)について、事務局から一括説明。

(5) 意見交換（要点のみ記載）

委員

- ・富山の経済が今後どうなっていくかのビジョンを明確化していただきたい。それを踏まえ、市としてDXや生産性の向上に対する中小企業へのバックアップ、また、企業誘致についても、力を入れて行っていただきたい。
- ・「シティプロモーションの推進」については、どの県・市でも同じようなことをやっている中で、これが日本一というものをいくつかしっかり作り込んでもらいたい。

委員

- ・スマートシティ推進ビジョンと、まち・ひと・しごと総合戦略の関係性について、まち・ひと・しごと総合戦略の中にスマートシティ推進ビジョンは含まれるのか、それとも、それぞれ目的が別で関係性として、まち・ひと・しごと総合戦略が上位にあって、その下にスマートシティ推進ビジョンがあるのか、その位置付けを確認したい。
- ・本文中に記載があり、具体的施策に入っているものがある一方、本文に追加されているものの、具体的施策には反映されていないものがある。本文に追加された内容と具体的な施策への反映状況の考え方について、教えてほしい。

事務局

- ・総合戦略とスマートシティ推進ビジョンの基本的な位置付けとしては、並列に近い。スマートシティ推進ビジョンは市の最上位計画である総合計画と整合性をはかりつつ、全ての個別部門計画に対する指針として位置付けられており、どちらがどちらかを包含する、というようなことはない。
- ・市の事業は戦略に載せていないものを含めて多数あることから、基本的には既存事業は本文に落とし込む形で対応し、特徴的で新たに取り組むべきものは本文にも載せ、さらに詳しく具体的な施策という形で掲載している。

委員長

- ・委員ご指摘のように、様々なビジョン、或いは計画が並立しており、メッセージの出し方として、市民にクリアな形で届くような形で、提示していただければと思う。

委員

- ・A I カメラやセンサーネットワークを活用して人の流れのデータが出たときにどういふことをやるか、ということも打ち出していくと良い。
- ・大都市交通センサスや、パーソントリップ調査といったものをA I やI C Tで上位互換として代替できる可能性があるのでは、関係性など比較した上で、I C Tの利活用と戦略性を明確に打ち出していただければと思う。

委員

- ・これからのスマートシティの実現に向けた取組で、市民だけではなく、民間企業と連携をしながら相乗効果を上げていく、といった取組もこれから必要になってくる。
- ・様々なデータをどうやって生かすかというところを考えていただき、今後ぜひ、産学官民連携でデータをシェアし連携するような施策がこれからはもっと増えれば、よりよいものができるのではないかと。

委員長

- ・データをどう活用していくかが大事で、産官学民の連携では、近年、大学でデータサイエンスに力を入れているが、良質なデータをどれだけ扱えるかで教育性が決まってくるので、ぜひ協力をさせていただきたい。
- ・良質な課題があるところに人は集まってくる。富山市が抱えている、或いは今後解決しなければいけない課題を提示し、課題解決に向けて様々なプレイヤーが集まってくる、ということで、交流人口も増えていくのではないかと。

委員

- ・外国の方たちが住みやすい、働きやすい、そういった場所になっていくことによって、富山市の活力といったところも増えていくと思う。
- ・日本人が減っていく中で世界の人口は増えているので、働き手、地元の担い手として外国人は非常に有力ではないか。そういった意味で、会議の委員に外国人の方がいればよかった、という印象を持った。

委員

- ・大企業としては税金を払うのであれば、企業版ふるさと納税をしたいと考えており、スマートシティ、脱炭素や、未来人材育成に対して、企業が富山市にふるさと納税を

するチャンスはたくさんあると感じている。

委員

- ・今回改定される一つの流れとしてDXがあるが、令和2年からもう一つ、GXの動きがかなり加速しているので、地域の脱炭素といった観点も、次の総合戦略の中では盛り込んでいただきたい。
- ・富山市は、PFI、PPPの取組が非常に進んでおり、それをさらに磨き上げるというところにも力点を置いてはどうか。新たな官民連携手法なども出てきているので、率先して取り組んでいただくとさらに良いと思う。

委員

- ・郊外や中山間地域などの公共交通空白地域では、地域住民が自主的に移動サービスを行っている地域もあるが、車両や運転手の確保、また、サービスを運営していくにあたって担い手不足といった課題も多い。新たな移動サービスの導入が地域の生活課題の解決に繋がるものとなるよう、積極的に推進していただきたい。
- ・安心安全で魅力的なまちとなるよう、デジタル関係の施策を積極的に進めていただき、地域の抱える課題の解決を図っていただきたい。

委員

- ・地域課題が何であるかということを経り込み、どこに投資して政策を引っ張っていくかという、アクセントは第二期以降においては明示してもいいのではないか。
- ・富山の産業構造は生産材や中間材に関する企業が多く、あまり商業で地場の企業の宣伝等を見る機会がないが、優良な企業として上位に並んでいるので、イメージを変えていくということが必要ではないか。
- ・地域のネットワークや情報提供を住民に施せる仕組みを地区センター中心に考えていくべきではないか。

委員

- ・県内高校出身の県外大学生のUターン就職率で、約50%は戻ってきているということだが、20～30代の女性が戻ってきておらず、魅力的な、働きたい場所が富山になく進学先の地でそのまま就職してしまうということが一番の問題だと思っている。
- ・人口が減っていくにもかかわらず空き家は増えており、空き家情報バンクについて状況把握するようにしているが、その後どうなるのかが見えておらず、空き家バンクに情報登録した後、例えば売れたとか、新しいことに活用した、というデータがまだ見えていない。富山市の方でも、今後増えていく空き家の活用について施策があれば良い。

委員

- ・子供時代から、まちづくりに関してデジタルを使ってできること、というところがあれば良い。
- ・富山の文化財や博物展にデジタルを入れていくことによって、自分たちの宝に気づき、将来的に富山に住むことを選び、富山を起点としていろいろなビジネスをしていくということに繋がらないか。

委員

- ・この地域に住んでよかったと思うことを実感できるようなこと、とりわけ若い方々が実感できるような環境づくりが必要。そのうちの一つが、富山市の日本一のこと、全国でもここはトップレベルといったこと、或いはこの地域で誇れることを実感できるような環境や仕組みを作ることが必要ではないか。

委員

- ・インバウンドについて国の戦略では、訪日外国人にはこれからお金を使ってもらう、ということで5兆円の目標をたてている。市の戦略について、現状の数値目標は交流人口（観光客入込数）となっているが、人口が少ない中で人数を稼ぐ、というのは難しい時代になっており、どれだけ魅力的なコンテンツが富山にあるのか、わかりやすくアピールできることがないと伝わらない。
- ・外国人観光客の誘致促進についても、何をプロモーションするか。富山の一番の魅力とは何なのか。富山の自然の部分といったアピールポイント、内容を伝えられるようになって欲しい。

委員

- ・原材料高、電気料金の高騰といったところで苦しいが、人が足りないため引き続き求人を出す、という声を企業から聞いており、有効求人倍率は1倍を超えた水準で推移している。

5 閉会

以 上